

「ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発」

実践力をつける 実習教育統合支援システム

「取組の概要」

文部科学省が「大学教育改革の支援」の一環として公募した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」において、平成17年度に本学申請の取組が採択されました。事業の実施機関は、平成17年度～19年度の3ヵ年です。

公募テーマ6：『ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発』

取組名称：『実践力をつける実習教育統合支援システム』



大阪大谷大学
学長 草場 宗春

平成17年度は、全国から全テーマに対し合計509件の申請があり、84件が採択されました。そのうち、テーマ6には国立私立大学（短大・高専を含む）から86件の申請があり、そこから14件（採択率16.3%）が選ばれる（私立大学が7校）という厳しい競争でした。e-Learningを率先して取り入れてきた本学の実践が評価され、高度情報通信化社会における教育改革の一つのトライアルとして取り上げられました。e-Learningのためのコンテンツ作りに留まることなく、実践力を養成するためにe-Learningを活用した実習教育支援を推進し、学生指導をさらに充実させようと考えております。

「実践力をつける実習教育統合支援システム」とは・・・

- “高いコミュニケーションスキルが要求される職業”をめざす学生の実習教育のためのシステムである
 - 実習を通じた人材養成課程を4階層にモデル化し、それぞれの段階においてe-Learningを活用した学習・実習支援を行なう
- 先輩の実習記録や成果が後輩へと受け継がれていく自己増殖的e-Learningプログラムである

実習教育支援のポイント

● 事後指導の文章化支援

- ✓ Web学習システムによる実習報告書作成の支援
- ✓ その結果の教材化
→ 次年度以降の基礎教育段階で活用

● 実習中の遠隔指導支援

- ✓ インターネットによる実習生、受入機関、大学との間の緊密な連携による指導体制の構築
- ✓ 指導経過記録の保存による次年度以降の教材化
(循環型自己増殖 e-Learning 教材)



● 事前指導のマルチメディア利活用

- ✓ 各種実習のデジタル映像化、および事前指導に対する教材化
- ✓ マルチメディア教材を用いたオンデマンドによる学習とケーススタディ



● 論理的言語操作スキルの早期養成

- ✓ プレゼンテーションスキル養成
共通必修科目「コンピュータ技術基礎 I」において学生の発表をマルチメディア教材として活用し、評価を行なうシステム（開発済・運用中）



- ✓ 論理的文章構築法の学習
選択科目「論理的文章作成法入門」においてWeb学習システムによる集合学習と個別学習の連携



「レポート作成・添削システム」

＜プレゼンテーション能力向上を目的とした
正確な日本語を学習するツール＞

＜添削の流れ＞

1 課題提示 教師用添削画面



3 提出された文章の添削

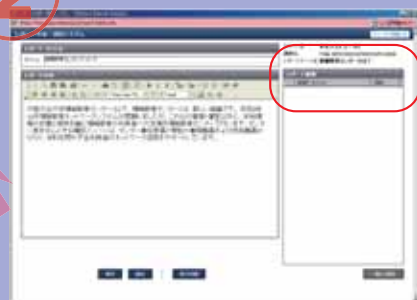


5 完成



2 入力

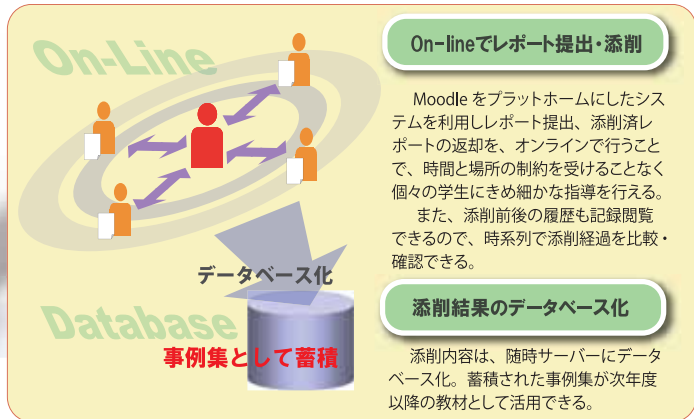
学生用添削画面



4 添削を参照しながら修正

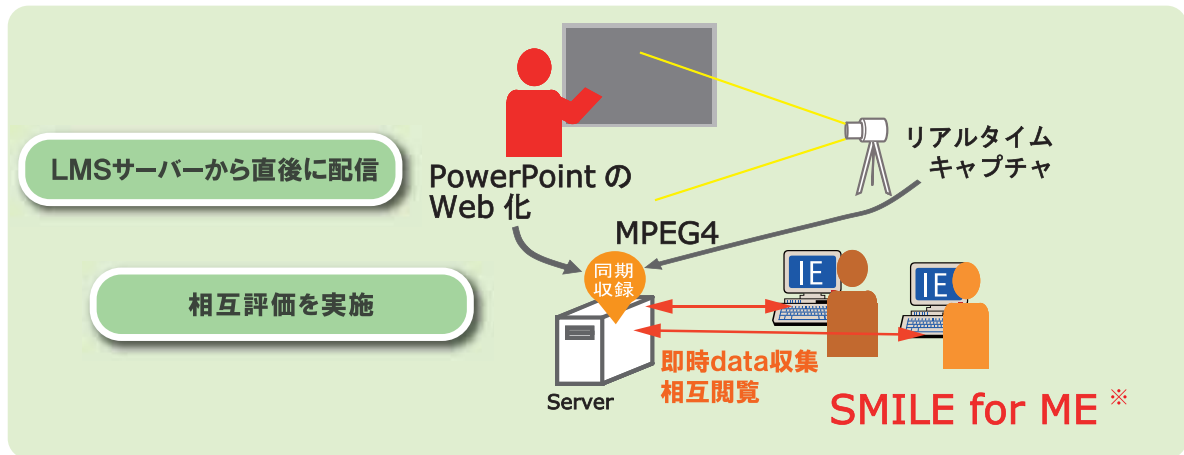


添削の履歴表示エリア



「プレゼンテーション学習支援システム」

＜プレゼンテーション学習支援システムの仕組み＞

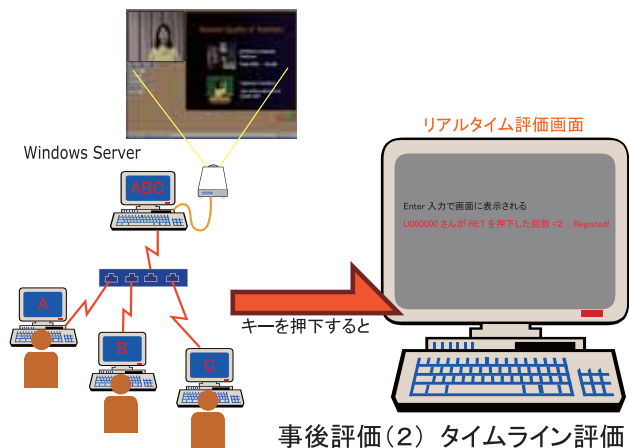


＜画面イメージ＞

●リアルタイム アセスメント

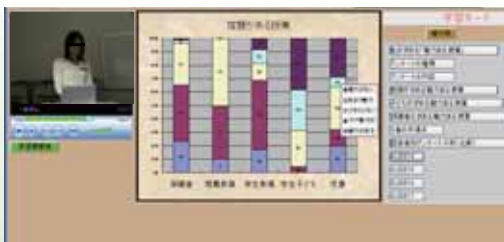


事後評価(1) 観点別評価



事後評価(2) タイムライン評価

●タイムラインに沿って評価・反省



※ **SMILE for ME** Synchronized Multimedia Interactive Learning Environment for Multi-mode Education
 授業や講演、プレゼンテーションを、PCと映像をその場で同期させながらキャプチャする、eラーニング用のコンテンツを作成するためのツール

「指導案作成支援システム」

〈システムの概要〉

作成する指導案の校種
・教科選択画面



指導案入力画面（入力前）



指導案入力画面（入力後）



実習後の評価等出力 (PDF)



〈目的および期待できる効果〉

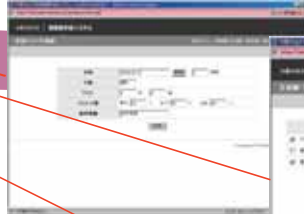
実習活動の構成および計画の具現化 → 「指導案」作成

①指導計画全体の整合性、各項目の意義や関連性への理解深化
→ 体系的な指導計画のイメージ・指導内容の矛盾や非合理性の解消

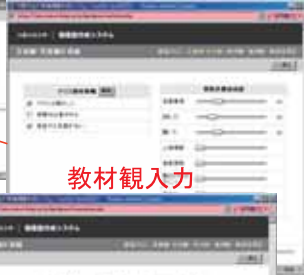
②(作成過程を含めた) 即時的な情報共有
→ 実習生・指導教諭・大学教員・学生(上級生・同級生・下級生)・・・
実習教育関係者による多様な指導・評価=(特に実習期間中の)指導充実

③(他のシステムと有機的に連動した) 実習教育全体の質的向上
→ 文章添削、プレゼンテーション収録評価、実習日誌作成支援、・・・
実習現場の負担軽減 + 指導内容の再現性向上 + 諸活動の体系的理解

基本情報入力



児童観・生徒観入力



教材観入力



指導観入力



実習後の評価等入力画面



指導案入力画面（完成後）



「教職員の実施体制と実施年度」

	文章化 スキル養成	プレゼンテーション スキル養成	アーカイブ化	実習先教員との 協調指導
事後指導 ↑	A 2			
実習支援 ↑			C	D
事前指導 ↑		B 2		
基礎教育	A 1	B 1		

A 1, A 2: 文学部教員(主に論理的文章表現法の指導教員が担当)

B 1, B 2: 教育福祉学部教員研究(プレゼンテーションの研究を実施している教員が担当)

C: 教育支援センター職員(一部外部委託)

D: 人間社会学部・教員教育福祉学部(「地域研究実習」の教員が担当)

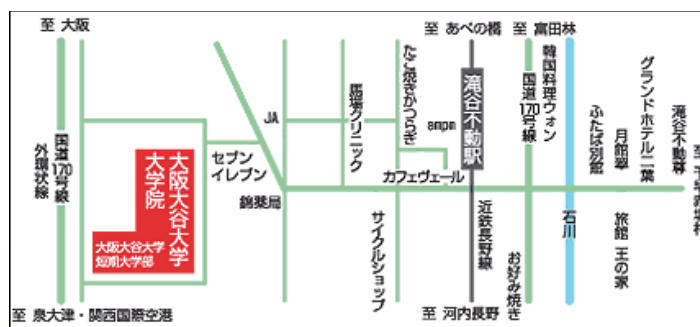
凡例

17年度

18年度

19年度

アクセス 最寄り駅 近鉄長野線 滝谷不動駅



大阪大谷大学ブランドイメージ

大阪大谷大学の3つの大と伸びやかに手を広げている人をモチーフにシンボル化。「自立」「創造性」「共生」をコンセプトに人が共に育ち合う教育の実践を表現しています。

【お問い合わせ先】 大阪大谷大学 情報通信係

Tel: 0721-24-1117 e-Mail: jyoho@osaka-ohtani.ac.jp

Fax: 0721-24-0899 URL: <http://www.osaka-ohtani.ac.jp>